

福知山医師会だより

あかひげ

2010年



表紙によせて

毎年行われるスポーツ児童の関節機能検査…今年で17年目となりました。
スポーツ少年少女の体を守り夢を育むことも福知山医師会の大切な役割です。

話題のワクチン

- “ワクチンで防げる病気”を知って、子どもを守ろう!
- ヒブ髄膜炎を日本からなくそう!
- 子宮頸がんを予防する
- 肺炎球菌ワクチンについて
- 救急フェスティバル
みんなで守ろう福知山の救急

“ワクチンで防げる病気”を知って、子どもを守ろう!

ワクチンで防げる病気のことを**VPD;Vaccine Preventable Disease**と呼びます。

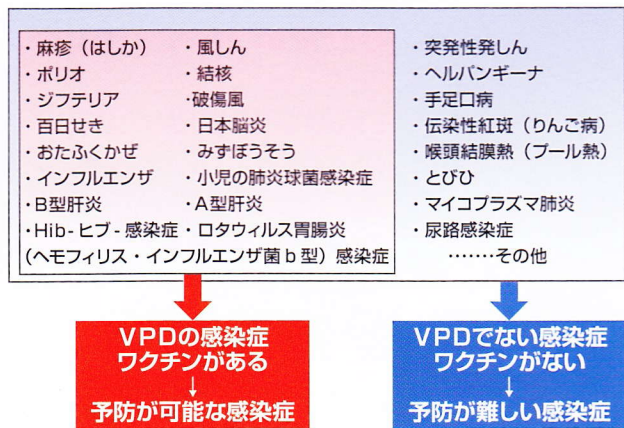
VPDは、子どもたちの健康と命にかかわる重大な病気で、現に日本では今も毎年多くの子どもたちが、ワクチンで予防できるはずのVPDに感染して苦しんだり、後遺症を持ったり、死亡したりしているのです。

ワクチンで防げるのに、もったいない、もったいない!

世界中には、とてもたくさんの感染症が存在します。中には、マラリヤやデング熱のように、ワクチンがないために有効な予防ができず、年間何十万、何百万という人の命を奪っている感染症も少なくありません。

そんな中で、予防のためのワクチンが開発されているVPDは、ごく少数派です。ワクチンで防げるのは、実はラッキーなことなのです。せっかくワクチンがあっても、接種しなければ予防できません。防ぐ方法のある病気なのに防がない。こんなにもったいないことはありませんよね。

子どものかかりやすい、主な感染症 ～VPDとVPDでないもの～



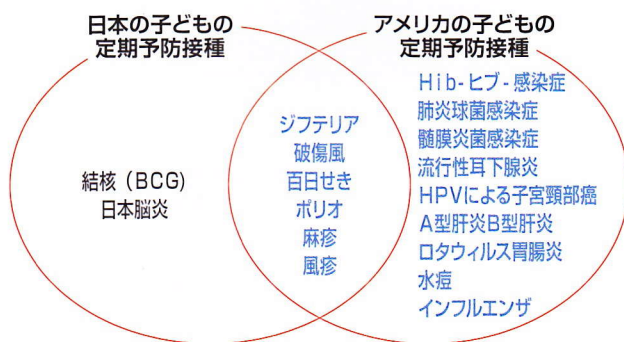
VPDの被害をなくそう!

日本では欧米などの国にくらべて大変多くの子どもたちがVPDにかかって、健康を損ねたり命を落としたりしています。

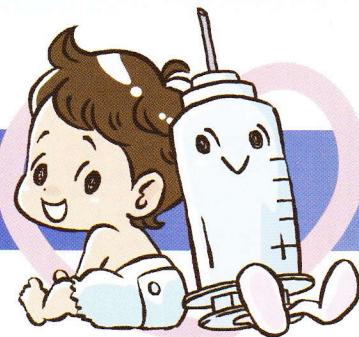
その原因の一つとして、日本ではワクチンの接種率が低いことがあげられます。これは保護者の方だけが悪いわけではありません。今の日本では、VPDの重大さやワクチンの大切さを一般の方々が知る機会はほとんどありません。また、もう一つの原因として、他の国では接種できても日本ではまだ使用できないワクチンがあるということです。他の国では予防できても、日本ではワクチンで防げない病気があるのです。

医療大国のはずの日本。でも、ワクチンの接種制度は、世界的に見ると遅れています。VPDの被害をなくす前にいくつもの壁が立ちはだかっているのです。

子どもの定期予防接種の日本とアメリカとの違い



ヒブ髄膜炎を日本からなくそう!



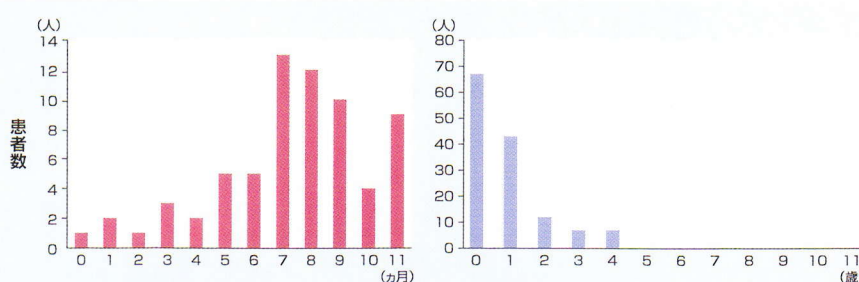
ヒブ髄膜炎

細菌であるインフルエンザ桿菌b型を略してヒブ(ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、Hib)と呼びます。ヒブはヒトからヒトへ飛沫感染し肺炎や敗血症などの重篤な感染症を引き起こします。なかでもヒブ髄膜炎はもっとも頻度が高く予後が悪い病気です。

ヒブ髄膜炎は多くは免疫系の未発達な生後3ヶ月から5歳までの子供たちがかかります。特に乳児期から集団保育されているお子様は注意が必要です。ヒブ髄膜炎は発症すると重症化し後遺症を残したり死亡することがあり

ます。日本では1年間に約600人の小児が発症し、そのうち約30人が死亡、約4分の1に後遺症が残るといわれています。

インフルエンザ菌による化膿性髄膜炎の発症年齢(2005年1月1日~2006年12月31日、n=136)



砂川 慶介 他: 感染症学雑誌 82(3), 187-197, 2008より作成
資料提供/第一三共株式会社

ヒブワクチンの効果

ヒブ髄膜炎予防のため開発されたワクチンがヒブワクチンです。1987年から米国で使用開始され1990年代には世界各国で使用され効果を発揮しています。ヒブワクチンを導入したデンマークではヒブ髄膜炎が激減し2007年には発症例がなくなりました。世界保健機構(WHO)は1998年にヒブワクチンを定期接種するよう発展途上国などに勧告しました。

日本のヒブワクチン接種の現状と展望

日本では2008年12月よりヒブワクチン接種が可能となりました。

接種方法は開始月齢(年齢)により3通りあります。

●ヒブワクチン接種スケジュール

7ヶ月未満:		1ヵ月ごとに3回接種し、1年後に追加1回(3種混合ワクチン接種と同じ)
7ヶ月以上~12ヶ月未満		1~2ヶ月間隔で2回接種し、1年後に追加1回
1歳以上~5歳未満:		1回のみ

現在は定期接種ではなく任意接種のため費用は保護者負担となります。このため現状での接種普及率は不十分と言わざるを得ません。今後は自己負担のない定期接種となり、すべてのお子さんが接種を受けられるよう取り組む必要があり、将来ヒブ髄膜炎が日本から撲滅されるよう目指しましょう。

子宮頸がんを予防する

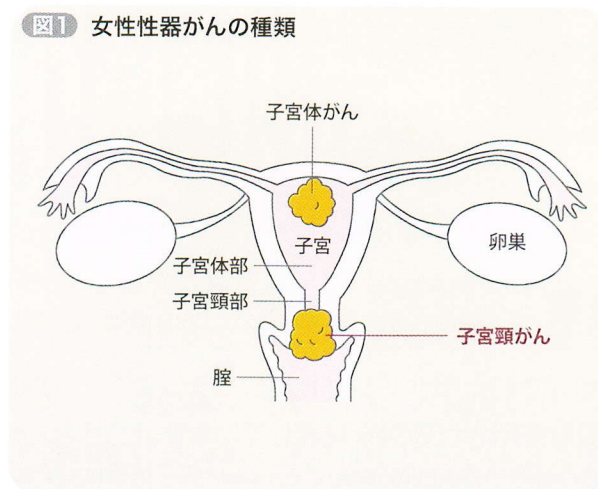
子宮頸がんは唯一発生機序が解明されているがんで、ワクチンで予防可能と言われております。娘さんをお持ちのお母様方は特に関心が高いと思います。今回はこのワクチンについてお話ししましょう。



子宮頸がんとは

女性性器に発生するがんには**子宮体がん**と**子宮頸がん**の2種類があります。子宮体がんはホルモンの異常などが発生に関与し好発年齢は50～60歳であるのに対し、子宮頸がんは20～30歳で発生し、発病のピークは30～40歳となります。日本では年間8000人が新たに子宮頸がんと診断され、約2400人が亡くなっております。

図1 女性性器がんの種類



資料提供/グラクソ・スミスクライン株式会社

ヒトパピローマウイルスHPV

子宮頸がんの発生にはある種のウイルス感染が関わっていることが明らかになりました。このウイルスは「ヒトパピローマウイルス HPV」と呼ばれます。HPVは私たちの皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスです。HPVには100以上の多くの種類がありますが、子宮頸がんの発生に関係するのは15種類ほどで「**発がん性HPV**」あるいは「**ハイリスクタイプHPV**」と呼ばれております。

HPVの子宮頸部への感染はほとんどが性体験によるもので、子宮頸部粘膜に微細な傷が生じそこからウイルスが侵入して感染が起こります。通常ハイリスクタイプHPVに感染してもウイルスは自然に排除されますが、一部のケースでは感染が長期間継続し子宮頸部の細胞が異常な形態を示し、がん化すると考えられています。

HPV感染予防のワクチン

HPV感染を予防すれば子宮頸がんは防げるわけです。ところがHPVは血液の中に入った
り、炎症を起こしたりしないため抗体が自然に作られることは期待できません。そこでワクチ
ンの開発が進められました。現在ハイリスクHPVの16型と18型に対するワクチンが提供さ
れ、子宮頸がんの6割以上はこれで予防可能と考えられています。ワクチン接種は性体験前
に行うのが理想的です。多くの国では優先接種対象を12歳の女子とし欧米諸国では既に公費負担
でワクチン接種が進められております。しかし性行動のある女性であれば新たにHPV感染の機
会に曝されるわけですから年齢に関係なく誰でも接種対象となります。

福知山市でも来年度から中学3年女子が一部公費補助で接種可能となります[※]。これは歓迎す
べきことです。ただ公費負担対象がある年齢に限定されるのはイタリアなどごく一部の国だけ
です。子宮頸がんの撲滅を目指すうえでも、また医療の公平性を守るためにも公費負担対象年
齢を広げることは私たち医師会そして福知山市民の願いであり責務と考えています。

※平成23年度から公費負担で実施される公算が高いようです。特定の年齢に限らず必要とできるだけ多くの年齢層が接種できるよう期待します。

子宮頸がん予防ワクチン接種が推奨されている年齢の国際比較



■優先接種対象 □キャッチアップ接種対象

Wright TC Jr.: HPV Today 2008: 14: 8-9

資料提供/グラクソ・スミスクライン株式会社

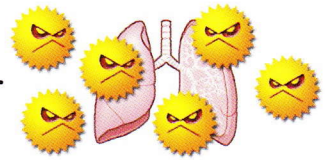
お 知 ら せ

市民講座「話題のワクチン」

●11月13日(土) 午後2時～ ●福知山市民会館3F31号室
お気軽にご参加下さい。お待ちしております。



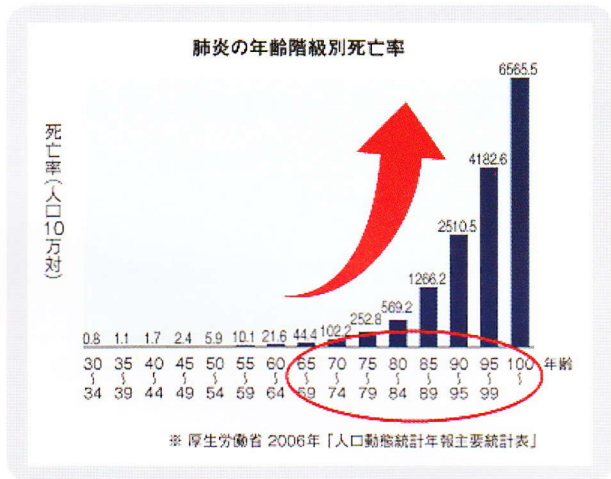
肺炎球菌ワクチンについて



ここ数年で成人に対するインフルエンザワクチンの接種は定着した感がありますが、もう一つ高齢者に有効なワクチンがあります。それは「肺炎球菌ワクチン」です。最近はマスクにも取り上げられることが増えご存知の方も多いかと思ひます。

肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌による感染症を予防します。

肺炎の原因の約3分の1は“肺炎球菌”ですが、残りの約3分の2は肺炎球菌以外の病原体が原因で、肺炎球菌ワクチンはこれらに対しては全く無効です。したがって「肺炎球菌ワクチンを打てば肺炎にかからない」ということでは決してありません。しかし、それでも肺炎球菌に対する予防は非常に重要です。その理由は一言で言うと、**肺炎球菌感染は死亡率が高い**ためです。激烈な場合は数時間のうちに見る見る状態が悪化し亡くなってしまうことさえあります。もちろん、全員が重症になるわけではありませんが、ご高齢になるほど、また肺気腫（COPD）をはじめとする慢性の疾患をお持ちの方では非常に死亡率が高くなります。もうひとつの理由は、これまで特効薬であったペニシリンの効かない肺炎球菌が増加しています。さらに、他の抗生剤までもが効かない“多剤耐性肺炎球菌”の出現が問題になりつつあります。つまり肺炎球菌感染の予防をしていただくことが非常に大事になります。



肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌感染の約80%に効果が期待されています

肺炎球菌を被うカプセルには90種類以上の型（タイプ）がありますが、現在日本で発売されている肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）は、これらの中から感染する機会の多い23種類のタイプの抗原を含んでいて、肺炎球菌感染の約80%に対して効果が期待されています。

肺炎球菌ワクチンは1回の接種で約5年間有効

インフルエンザワクチンの効果は5ヶ月程度しか持続しませんが、肺炎球菌ワクチンは**1回の接種での免疫効果が約5年持続**すると考えられているため、毎年接種する必要はありません。さらに現在では必要性が高く、最初の接種から十分な間隔がある場合には再接種も認められていますので、「65歳以上・心臓や肺に慢性の疾患がある・脾臓摘出後の方」には出来るだけ早めの接種をお勧めします。

肺炎球菌ワクチンの副反応

注射をした場所の腫れ・痛み・熱感がみられることがありますが、**重い副反応の報告は非常に少なく**安全性は高いと考えられます。

●現行のワクチン接種料

ヒブワクチン	7,000～8,000円
子宮頸がんHPVワクチン	15,000円前後
肺炎球菌ワクチン	8,000円前後

料金は各医療機関にお問い合わせください。

救急フェスティバル

みんなで守ろう 福知山の救急

平成22年9月11日（土曜日）、福知山市民会館および市庁舎前で**救急フェスティバル**（主催：福知山医師会、福知山市）を開催しました。今年は、天候にも恵まれ、親子連れなど多数の市民に参加していただきました。

この救急フェスティバルは、「**みんなで守ろう 福知山の救急**」をテーマに開催され、広く市民に福知山市の救急医療の現状について知っていただくことを目的としています。今年で第5回を迎えました。

急病人やけが人が発生したときに真っ先に駆けつける救急隊の活動を理解していただくために、救急車・レスキュー車の展示を行いました。子どもだけでなく、大人も救急車の車内などを興味深く見たり、救急隊員に熱心に質問をする方もおられました。今年の企画として、レスキュー隊による救助訓練のデモンストレーションを行いました。市庁舎玄関を高い崖に見立て、崖下の要救助者を救い出しました。日差しが強く暑い中、多数の市民がレスキュー隊の鮮やかな救出を見学しました。また、集まってくださったたくさんの子どもたちのために、綿菓子・スーパーボールすくい・風船などを用意し楽しんでいただきました。

福知山市民会館3Fでは、救急隊員による救急蘇生処置の実技指導（一次救命処置+AED）

などを行い、人が倒れたときに行う心肺蘇生法を体験していただきました。同じフロアで休日診療所の役割や受診を促すパネル展示も行いました。

福知山市には消防署・北分署・東分署で救急車が5台しかなく、年間約3000件の出動をしています。上手く使わないと、必要なときにすぐに対応できないことになってしまいます。救急車の適正利用をみなさんに知っていただくため、今年はジューケイキマンに手伝ってもらい、ジューケイキマンショーを開催しました。たくさん子どもたちにも楽しんでもらったショーになりました。

特別講演として救急に関する講演を行っています。今年は、災害をテーマとしました。公立豊岡病院但馬救命救急センター長小林誠人先生による「多数傷病者発生！ 対応に必要な知識とその準備」の演題で講演をしていただきました。災害医学を一般の方にも非常にわかりやすく解説したものでした。また、JR福知山線脱線事故の時に活躍された経験をもとに、一般市民の方にも出来る多数傷病者発生時の対応を説明していただきました。

福知山医師会は、福知山の救急医療を守るために今後も活動を続けていきたいと思っております。みなさまのご協力をお願いいたします。





お問い合わせ先 0773-23-6039

夢、叶えませんか？



生徒募集!

福知山医師会看護高等専修学校

福知山市岡ノ174 〒620-0871 TEL 0773-23-6039



この印刷物は再生紙に
ソノクニ印刷にて印刷されています。